

2022.1.10

お知らせ&お願い 2：1/22 第 29 回働学研（博論・本づくり）研究会

十名 直喜

新年にあたって、1/8に「お知らせ&お願い」をお送りし、昨年の簡単な総括を行い、抱負もご披露しました。

その後2日間で、2本の発表申し込みをいただいています。

これで、5本の発表が揃いました。それをふまえ、1/22 第 29 回働学研プログラムができましたので、お知らせします。

1/22 第 29 回働学研プログラム

（司会：太田・濱・十名、画面：澤 & 発表・議論各 15～20 分：計 35 分/本）

第 1 部 生産力&環境問題&出版への視座（司会：濱）

小野 満：「生産力の質的发展の重要性」

程 遠紅：「中国における都市生活ごみ問題への歴史的視座（博論 第 1 章）」

高松平蔵：「出版を進めるエンジンは何か —ジャーナリストの視座とノウハウ」

第 2 部 勤勉・勤労思想と働学研のロマン（司会：太田）

堀 隆一：「石田梅岩にみる日本の勤勉・勤労思想」

平松民平：「もう一つの働学研（父・平松利平を語る）

—社会主義者・経営者・技術者としてのロマン」

5本の発表には、いくつかのドラマも含まれています。小野さん、堀さんからは、早くから発表の申し込みをいただいていた。

しかし、その後が続かず、年末年始に入ってしまった。この間、小生も自著書出版への対応に精一杯で、なかなかフォローできない状況にありました。

そうした中、ジャーナリストとして出版ヒット作を連発されている高松さんに、出版に至るドラマとノウハウについて、発表していただくことになりました。

博論のノウハウは、濱さんから何回か披露していただいています。一方、本づくりについては懸案課題でしたが、そこに一矢報い、新たな地平を切り拓くことになります。

程さんの第 1 章は、博論の一番弱い環でした。それが、年末年始のご奮闘で、力作に変身しており、それを語っていただきます。

平松さんのご発表は、御父上（平松利平博士）の評伝です。この数日、平松さんと電子メールで、御父上の生き様をめぐって熱い議論を交わしました。社会主義者、経営者、技術者、そして研究者としての生涯は、まさに働学研のモデルといえましょう。それについて、語っていただきます。

発表資料については、1/17（月）までにお送りいただきたく存じます。

2022年も、1月早々から熱い月例会になりそうな予感がします。

皆様のご参加をお待ちしています。ご参加の方は、十名（tona@iris.eonet.ne.jp）までお知らせください。くれぐれもお大事に。

<付記>

なお、2月以降についても、ご発表を受け付けています。十名までお知らせください。お待ちしております。